

【お問い合わせ先】  
 キャタピラー・ジャパン株式会社  
 渉外・広報室

〒158-8530 東京都世田谷区用賀4丁目10-1  
 TEL: 03-5717-1122 FAX 03-5717-1199

本資料はキャタピラー米国本社が2017年1月26日に発信したプレスリリースを日本語に翻訳し、みなさまのご参考に提供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容・解釈については英語が優先します。

## Caterpillar Inc. 2017年第4四半期及び通年業績、 2017年見通し発表

(単位: 10億ドル、但し1株当たり利益除く)	第4四半期		通年	
	2016	2015	2016	2015
売上高	\$9.574	\$11.030	\$38.537	\$47.011
1株当たり(損)益	(\$2.00)	(\$0.16)	(\$0.11)	\$4.18
調整後1株当たり利益	\$0.83	\$0.83	\$3.42	\$5.35

(イリノイ州ピオリア発) — Caterpillar Inc. (NYSE: CAT) は本日、2016年の第4四半期および通年業績を発表しました。

2016年第4四半期売上高は96億ドルで、前年同期の110億ドルから減少となりました。四半期の最終損益は、1株当たり2.00ドルの損失(前年同期は1株当たり0.16ドルの損失)となりました。

2016年通年売上高は385億ドルで、前年通年売上の470億ドルと比較し、18パーセントの減少となりました。また、通年の最終損益は、0.11ドルの損失(前年は1株当たり4.18ドルの利益)となりました。

上述の第4四半期業績には、3つの大きな現金支出を伴わない費用および想定を上回る**事業再構築費用**が含まれています。これらの項目が当四半期損失の要因であり、また通年業績が2016年10月時点での見通しを下回った主因でもあります。これらの項目、具体的には、(1)年金および年金以外の退職後給付(OPEB)プランの再評価に伴う**時価評価損**、(2)のれんの減損による損失、(3)繰延税金資産の評価性引当額およびこれらの各期へのインパクトについては、下記リンク先の決算資料Q&A第1問(16P)で詳しく説明しています。

<http://www.caterpillar.com/content/dam/caterpillarDotCom/releases/4Q16%20Caterpillar%20Inc.%20Results.pdf> \*英文) なお、当社はこれらの項目が継続的な事業活動から生じる収益を示すとはみなしていないため、上表では同項目を除外して算出した「調整後1株当たり利益」を併記しています。この調整後利益が、本質的な事業業績および前期との比較に関し有益な視点を提供するものと考えます。

2016年第4四半期の調整後1株当たり利益は0.83ドルで、前年同期と同じとはいえ、2016年10月見通しでの「事業再構築費用を除いた利益」は上回ります。2016年通年での調整後1株当たり利益は3.42ドルで、前年の5.35ドルからの減少となりました。なお今年度は、売上減に伴う利益へのマイナス影響が、23億ドルにのぼる**期間費用**と**変動製造原価**の削減により軽減されています。

CaterpillarのJim Umpleby(アンプルビー)CEOは、「第4四半期業績は、予想を若干上回っ

たとはいえ、世界中のエンドマーケットの多くで 景気の実態が依然として弱いことを示しています。当社は第 4 四半期も、また年間を通して、将来に向けた能力を維持しつつコスト構造を需要の現状に整合させるという点で、素晴らしい成果を残しました。集中すべき領域に集中できていると考えています。すなわち、コスト管理、強固なバランスシートの維持、そして当社の将来に重要な分野への投資です」と述べました。

## **2017 年 見通し - 背景**

### **●プラス要因**

複数の事業部門において、緩やかな回復をうかがわせる兆候が見られます。

・**鉱山業界（鉱業機械）** - 資源価格は 1 年前より高く、また部品販売は過去 3 四半期のそれぞれで連続増、第 4 四半期においては見積もりや受注の状況に改善が見られ、鉱業向け製品の売上が底を打った可能性があります。

・**建設業界（建設機械）** - 中国が 2016 年から回復基調にあります。欧州での売上は安定を取り戻した様相で、2017 年にはさらなる改善が期待されます。ブラジルでの売上はピーク時から 80%以上下落していますが、同国経済が景気後退から脱却し始めれば、回復も期待できます。

・**エネルギー・運輸** - ガス圧縮機器関連事業は引き続き好調で、タービンには相当の受注残があります。石油価格が緩やかな上昇基調で安定すれば、掘削や油井関連サービスをサポートする当社事業にとってプラス材料となります。

米国で見込まれる税制改革とインフラ関連支出法案も前向きなニュースです。

こうしたイニシアチブは当社事業の多くに確実なプラスとなりますが、一方でこうした政策の影響が具体的に及ぶのは早くも 2018 年以降と予想しています。

### **●マイナス要因**

・**鉱山業界（鉱業機械）** - 鉱業向け製品への引き合いは増えているものの、鉱業会社各社の設備投資は、過去数年の鈍化から 2017 年によりやく横ばいに回復する程度と予想しています。鉱山業界での一部大型建機の売上は、2017 年は前年比減となる見通しです。

・**建設業界（建設機械）** - 北米並びに欧州・アフリカ・中東地域が最も懸念される地域です。景気の好転やインフラ支出増が期待されてはいるものの、2016 年には中古機械在庫が北米での売上にマイナス影響を及ぼしており、この流れが 2017 年も続くと予想されます。アフリカ/中東地域では、全体的に弱い景気と石油収入に依存する経済への圧力が続いて成長速度が抑えられ、2017 年は再び売上減の見通しです。さらに、欧州においては Brexit（英国の EU 離脱）に関連する不安定要因が依然懸念されています。

・**エネルギー・運輸** - 輸送量の伸び悩みと遊休車両の多さから、鉄道業界も厳しい状況が続きます。また、造船分野の弱さも当社の船舶関連の売上にマイナスとなるでしょう。発電分野の売上も伸び悩み、さらに産業用エンジンの OEM 販売も 2016 年を下回ると予測されています。

### **●2017 年見通し- 売上および利益**

2017 年通年見通しは、2016 年 12 月上旬、投資家向けに提供した内容から大きく変わっていません。当時、2017 年通年売上高を 380 億ドルとしたアナリスト予想は見通し中央値として妥当と当社も判断しましたが、現時点での見通しは、過去 2 ヶ月で進行したドル高を念頭に若干引き下げ、売上高が 360~390 億ドルの幅（中央値 375 億ドル）となっています。

売上高が前述中央値であった場合の1株当たり利益見通しは2.30ドルとなります。およそ5億ドルの事業再構築費用を除くと、売上高が前述中央値であった場合の1株当たり利益見通しは2.90ドル、営業利益の対売上変動は2016年比で約30%減となります。

Umpleby CEOは、「厳しい経済環境でも引き続き「実行」に取り組み、営業利益、収益性、株主還元の向上に集中していきます。主要エンドマーケットの一部では明るい兆候も見られますが、全体的には当面この厳しい環境が続くと見えています」と述べました。

## ハイライト

- **2016年** 通年売上高は**385億ドル** 前年比18%減かつ予想を若干下回る
- **2016年**は期間原価と変動製造原価を**23億ドル削減** – 事業再構築およびコスト削減策、インセンティブ報酬減により売上減のマイナス影響軽減
- **事業再構築費用**および**3種類の多額の非現金支出費用**が**第4四半期利益**に大きく影響 – 当該四半期および通年損失計上の主因に
- **2016年**機械(鉱山・建設)およびエネルギー・運輸(Machinery, Energy & Transportation)の営業キャッシュフローは**39億ドル** – 資本支出と配当を十分にカバー
- **2017年**売上高は**360~390億ドル(中央値 375億ドル)**の見通し – 回復の兆しは見られるが、リスクと不安定な状況は継続
- 売上高が前述幅の中央値であった場合、**2017年1株当たり利益は2.30ドル(調整後で2.90ドル)**の見通し

以 上

## キャタピラー社について：

建設機械の歴史は、1925年にキャタピラー社と共に始まり、未来へ続きます。世界最大の建設機械メーカーであるだけでなく、エンジン・発電機などパワーシステムのリーディングサプライヤーでもあります。また、1963年以来、キャタピラー社は、半世紀以上にわたって、日本に重要な拠点を構えています。特に、主力製品である油圧ショベルの開発・製造をリードし、時代の先端を行く製品と技術を世界へ発信しています。